香川憲法会議が総会

香川憲法会議は２０日、高松市内で総会を行い、渡辺治一橋大学名誉教授の憲法会議主催「２０２３年冬の憲法講座」のビデオ視聴をし、約３０人が参加。

十河浩二事務局長は、岸田政権が安保三文書を具体化し、国民生活を破壊し、経済や農業も含め、あらゆる分野で対米従属の「戦争国家づくり」を進めていることを批判。９月までの憲法改正、緊急事態条項創設・議員任期延長・９条改憲の策動を許さず、憲法が生きる政治の実現や、憲法改悪阻止の諸団体との共同などの方針を確認しました。

渡辺氏の講座では、歴代自民党政治の憲法解釈が、安倍政権、岸田政権でどう変えられてきたか、日米軍事同盟が変化し、なぜ日本が軍事ブロック外交に至ったかを解説。

「集団的自衛権の行使をせず、９条改憲に反対し、暮らしを守るという一致点で市民と野党の共闘を再構築すること」が強調されました。

自己水源とは

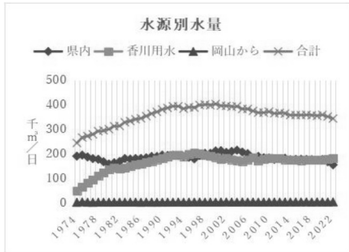
自己水源という言葉はいくつかの違った意味で使われていますが、ここでは、香川県の水道に限定して、香川用水等の県外水源と区別しての県内水源を指すことにします。

香川県はもともと雨の少ない地域であり、水源問題は深刻でした。解決策として香川用水が作られましたが、これも水不足の折には供給が減少されることが多く、平成６年の渇水時は「平六渇水」ともいわれる異常な渇水状況となりました。

そのため各自治体では、自己水源を確保することに力を入れてきました。

水源別水量の推移

グラフで見ると、１９７４年の香川用水完成以降１９９２年頃までは県合計水量の伸びと併行して香川用水が増えています。その後１９９４年の平六渇水からしばらくして自己水源が増えてゆき、２００４年がピークでしたが２００７年まで減り続けた後は、ほぼ香川用水と同量となっていました。



自己水源の重要性

水源までの距離と、各水源の分散性は、災害対策上重要です。浄水場統廃合の話で触れたように、水源が遠いと水路・水道管が長くなり、被災の危険性が高まります。また、一つの水源の割合が大きいと被害も大きくなります。避けられないリスクは分散させることが鉄則です。平六渇水で県民も有識者も認識した貴重な教訓です。加えて、長距離送水はエネルギーを多く使いCO2削減に逆行です。

香川用水に頼りすぎることはこれらの点で避けなければなりません。

そうした意味ではこの間の各自治体の努力は評価されるべきでしょう。

香川の水道の話⑥
いのちの水を守る会 香川
世話人　堀井ゆずる

映画案内
『老後の資金がありません』

老後の資金問題というシリアスなテーマをユーモラスに描く

☆監督　前田　哲

☆出演　天海祐希　草笛光子　松重豊

☆上映日時・場所

・穴吹学園ホール（旧高松テルサ）

・５／19（土）

①10時半　②13時半

☆料金

１３００円　前売・チラシ持参１１００円

《主催》
高松シネマクラブ

大阪万博支援と子どもの動員反対
香川県知事へ要請

日本共産党香川県委員会と県議団は２６日、池田豊人知事に、「大阪府・香川県　ＰＲ宣言」を撤回し、県としての来年の大阪・関西万博支援の取りやめと、万博への香川県の子どもたちの動員をやめるよう要請しました。中谷浩一県委員長、かし昭二県議、石田まゆ衆院香川２区候補が県庁を訪ねました。

ＰＲ宣言は９日に大阪府と香川県が連携し、万博と瀬戸内国際芸術祭のＰＲを行うとして交わされたものです。

要請書では、万博で夢素の土地は、猛毒のＰＣＢなどの有害物質を含む廃棄物処理場で、いまも地下からメタンガスが湧き出て、地盤沈下や液状化の危険性があり、災害時の避難計画すら策定されていないなど、開催地の安全性の問題があります。最新作『ゴジラ１・０』でも、１９４６年のビキニ環礁で行われた米軍による核実験「クロスロード作戦」でゴジラが被曝し、細胞内エラーの発生で巨大化するストーリーになっています。

第１作の脚本を書いた村田武雄さんは、「あのゴジラが最後の一匹とは思えない。もし水爆実験が続けて行われるとしたら、あのゴジラの同類がまた世界のどこかへ現れてくるかもしれない」と語っています。繰り返してはなりません。

勇気りんりんエッセイ
白川ようこ子
四国ブロック国政対策委員長

私が育った町には、「貞光劇場」という映画館がありました。夏休みなどは子ども向けに『ゴジラ』や『ガメラ』などの「怪獣映画３本立て上映」があり、私は姉と一緒に朝から夕方まで映画漬け状態。この映画館はかつての芝居小屋がそのまま映画館になっていたので、２階の桟敷きには畳が敷いてあり、追加料金10円を払えば一日中ゴロゴロしながら映画を見ることができました。私はこの「貞光劇場」の雰囲気が大好きで、映画監督の山田洋次さんが気に入ってくれたと聞いた時には、とても嬉しかったものです。

劇場もさることながら、ゴジラやガメラなどの怪獣ものが大好きだった私は、あの頃の怪獣映画は全て観尽くしていると思います。とりわけ怖さの中にも優しさが滲み出ていたゴジラに、小さいながらも何か哀愁の様なものを感じていました。ゴジラは１９５４年が第１作で、今年で70周年となります。同年の第五福竜丸事件を背景に、反核や文明批判をテーマにした映画でもあります。

学校行事として大阪・関西万博参加は行わないよう要請
新日本婦人の会

新日本婦人の会香川県本部は４月30日に県庁を訪ね淀谷圭三郎教育委員会教育長に学校行事として来年の大阪・関西万博参加は行わないように要請しました。申し入れには11人が参加。

２月に池田豊県知事は、県内の小中高・特別支援・高等専門学校生10万人が万博に参加する約４億円超の予算の事業を打ち出し、入場チケット、交通費の補助を表明しました。

小早川加代子会長は「ガスの爆発など安全性の観点からそもそも万博ができるかわからないなかで、子どもの医療費無料化や学校給食無償化、少人数学級実現など他に予算を使うべきところはたくさんある」と指摘しました。

参加者は「保護者としては、万博は日影がなく熱中症が心配で、衛生面や交通アクセスの問題、避難計画がまだないなど数多くの問題があり、安心して預けられない」などと訴えました。

ることや、建設費用や運営費などの予算の膨張の問題と、万博はＩＲカジノのための環境整備だという問題があり、大阪万博の「いのち輝く」と題した計画とはかけ離れていると批判しました。

かし氏は「ガスの爆発事故など多くの問題点がある万博を香川県が連携して推進することは県民の理解が得られない。安全性の確認もなく、県の来年度予算４億円を使い、小・中・高など１０万人の子どもの万博入場料と旅費を補助する計画は許されない」と述べました。